

Syllabus ID	syl.-120024
Subject ID	syb.-120007651
更新履歴	20120328新規
授業科目名	経済学 Economics
担当教員名	小柳敦史 KOYANAGI Atsushi
対象クラス	全学科5年生
単位数	2学修単位
必修／選択	選択
開講時期	前期／後期
授業区分	人文・社会科学・語学等
授業形態	講義
実施場所	5学年各クラス HR もしくは、選択制教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

本講義では、われわれが生活している社会の仕組みを経済学的視点から分析する方法を学ぶ。経済学の基本的な考え方について概観した後、ミクロ経済学とマクロ経済学という経済学の二大分野の原理を学習する。そのうえで、具体的な経済学的問題が提起する倫理的問題について考察する。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

ニュース、新聞等から現在問題となっている政治・経済・社会的問題がどのようなものであるか関心を持つこと。

学習・教育目標	Weight	目標	説明
	◎	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験をもって行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格をもって当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

- ・経済学の基本的な考え方を理解し、現実の社会問題の経済学的側面について適切な用語やモデルを用いて説明できる。
- ・市場主義経済の利点と限界を理解し、自らの経済倫理を根拠をもって説明できる。

授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味	
第2回	経済学の考え方(1)	経済学の10大原理	
第3回	経済学の考え方(2)	生産可能性フロンティア、フロー循環図、相互依存と交易	
第4回	ミクロ経済学(1)	市場における需要と供給の作用	
第5回	ミクロ経済学(2)	需要、供給、および政府の政策	
第6回	ミクロ経済学(3)	消費者、生産者、市場の効率性	
第7回	ミクロ経済学(4)	外部性	
第8回	中間試験		×
第9回	マクロ経済学へのイントロダクション	貨幣が人間社会にもたらすもの	
第10回	マクロ経済学(1)	国民所得と生計費の測定	
第11回	マクロ経済学(2)	生産と成長	
第12回	マクロ経済学(3)	貯蓄、投資と金融システム	
第13回	マクロ経済学(4)	総需要と総供給	
第14回	経済倫理(1)	あなたは何主義?	
第15回	経済倫理(2)	具体的な経済倫理の諸問題	
第16回	経済倫理(3)	価値マップの分析	
第17回	期末試験		×

課題 自習課題として教科書の復習問題・応用問題等に取り組む。教科書の設問に代えて簡単なレポートを求める場合も 提出期限：出題した次の授業時 提出場所：授業時の教室 オフィスアワー：初回の授業時に指示するが、放課後は基本的に教員室に在室している。	
評価方法と基準 評価方法： 経済学の考え方や概念について理解し、それを用いて現実の社会問題を説明する能力が身についているか、そしてその上で経済倫理の諸問題に対する自らの立場を述べることを、自習課題への取り組み、中間試験、期末試験を通じて評価する。 評価基準： 自習課題20%、中間試験40%、期末試験40%。	
教科書等	『マンキュー入門経済学』、東洋経済新報社、2008年。
先修科目	
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	初年度につき、なし。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。